

2019

甲賀でつながる30日

TaBiwa+R 2019年度活動報告書

忘れられない「ふるさと」に

「きっかけ」をキーワードに、学生・若者が地方創生に関わるにはどうしたらいいのかを考え、「甲賀でつながる 30 日」という企画が生まれました。私たちにとっては、去年参加した SDGs 地域共創型プロジェクト「むらのこ」が、間違いなく学生生活を大きく変える「きっかけ」となり、そこから始まった 30 日間を含む約 1 年間の活動で、甲賀市は人生で忘れられない「ふるさと」となりました。行政・大学・地域の皆様のご協力、そして一緒に活動した学生メンバーに、この場を借りて感謝申し上げます。

本報告書は、2019 年 11 月に実施した「甲賀でつながる 30 日」の実施報告として、1 ヶ月間の活動をまとめたものになります。また、学生が地域での活動を通じて感じたことや地域の皆様の声を踏まえて、今後の活動展望を記しています。

(TaBiwa + R 中西 優奈、西野 日菜)

目次

01

事業概要 P04 - 11

02

企画紹介 P12 - 27

03

総評 P28 - 35

04

展望・付録 P36 - 39

Contents

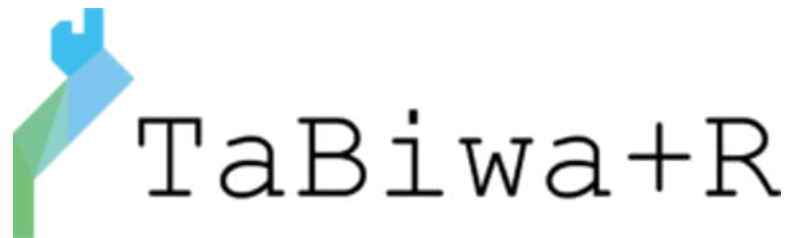
01

事業概要

甲賀でつながる30日

TaBiwa + R 2019年度活動報告書

団体紹介



TaBiwa + R

「甲賀でつながる30日」の主催団体。地方における観光事業や地域活性をテーマに、滋賀県を拠点に活動を行っています。2019年度は、若者が地域でSDGsを実践する「ふるさとSDGs」をテーマに活動を進めてきました。立命館大学が活動する学生団体に対して助成する制度である「学びのコミュニティ集団助成金」の2018、2019年度の採択団体です。

代表：中西 優奈(生命3)

協賛

明山陶業株式会社、宗陶苑、株式会社の一ふ、JAこうか、甲賀市観光協会

後援

滋賀県、甲賀市、甲賀市観光協会、信楽町観光協会、関西SDGsプラットフォーム

協力

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会、立命館大学FB + 1、京都大学エスノサンジョウ、甲賀のんべえクラブ、バランスボールサークル”ポムポムクラブ”、甲賀もち工房、山内自治振興会、甲賀の里 忍術村、甲賀くすり学習館、アウトドアサークル Into the green、Entervibe、

これまでの活動

2017年11月

立命館大学と甲賀市が、連携・協力に関する包括協定を締結

2017年12月

「村の子プロジェクト」がキャンパスSDGsで最優秀賞を受賞

2018年12月－2019年2月

SDGs 地域共創型プログラム「むらのこ」を実施

キャンパスSDGsで発表したプランを、より持続可能に実施できるようにSDGsを共通言語としてリメイクしたものが「むらのこ」です。4名のプロジェクトメンバーが中心となって、滋賀県内外の高校生から大学生まで参加者を募り4つのプロジェクトを立案しました。詳しくは下記のQRコードからご覧ください。



◀「むらのこ」の報告書はこちら
URL : <https://sustainableweek.org/archives/2003>

2019年5月

「エキスポー 2019ーくさつ・しがSDGs交流大会ー」にて餅つき体験企画「もちスポ」を出店

2019年10月

「甲賀でつながる30日」ガバメントクラウドファンディング実施・寄付金額60万円達成

2019年11月

「甲賀でつながる30日」実施

2019年12月

Sustainable Week 2019にて甲賀市ブース「こうかふえ」出店
社会システム研究所プロジェクト「地域の自律の意味を考える」にて登壇

開催概要

実施期間:2019年11月1日 - 30日

実施場所:甲賀市内

主催:TaBiwa+R

(立命館大学 学びのコミュニティ 集団形成助成金採択団体)

甲賀でつながる30日は、若者が地域をフィールドにSDGs(持続可能な開発目標)に主体的に取り組む「ふるさとSDGs」を実践する事業として企画しました。2019年11月の1ヶ月間空き家に住みながら毎日企画を行いました。また、活動資金をふるさと納税の仕組みを活用したガバメントクラウドファンディングで集めました。



SDGs(持続可能な開発目標)



SDGsはSustainable Development Goalsの略で、2015年に国連で採択された世界共通の17の目標です。別名「2030アジェンダ」と言われ、2030年までに達成すべき17の目標は、発展途上国のみならず、先進国も取り組むべき課題が網羅されています。

滋賀県甲賀市



甲賀市は滋賀県東南部に位置し、近畿圏と中部圏をつなぐハブとなっています。2004年に甲賀郡の水口町・土山町・甲賀町・甲南町・信楽町が合併して誕生しました。甲賀市といえば「甲賀流忍者」「信楽焼」「東海道五三次の宿場」が全国的に知られています。

ガバメントクラウドファンディング

ガバメントクラウドファンディングとは？

ガバメントクラウドファンディングとは、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングのことです。

通常のふるさと納税と異なり、自治体が掲げる「具体的な」プロジェクトに対して寄付を行うことができます。

ふるさと納税の本来の趣旨である「税の使い道に自分の意思を反映できる」しくみとして近年注目を集めています。

市民協働事業応援補助金

ガバメントクラウドファンディングの仕組みを活用して
市民活動を支援していこうということで作られたのが、

「市民協働事業応援補助金」という制度です。

「事業のファン」を「寄附者」という形で広く集めることができるので、そういった方の中から実際に事業に参加して
くださる方や、もう一歩進んで事業の担い手側に回って
くださる方などが出てくることが期待できます。

甲賀でつながる30日

甲賀でつながる30日では、30日企画の協力企業に甲賀市
5町の魅力が詰まった返礼品を提供していただきました。

多くの方のご支援があり、目標金額60万円を達成することができました。

ガバメントクラウドファンディング

PR動画「きっかけはふるさとから」▶

(URL: <https://youtu.be/gyhEuamyzhM>)



返礼品



チーズケーキ
(山田牧場)



湯呑みセット
(明山窯)



お茶ジャム
(JA こうか)



朝宮茶
(JA こうか)



甲賀流忍者
朱印帳
(甲賀市観光協会)



深緑海鼠釉中鉢
(宗陶苑)

その他助成金

ガバメントクラウドファンディングの他にも、滋賀県や立命館大学の助成金を受給し、30 日間の活動資金やその準備資金として利用しました。年度末には報告会で登壇し、受給している団体間との交流も生まれました。

滋賀県内大学 SDGs 補助金

滋賀県内の大学および短期大学の学生の活動を対象にした補助金です。SDGs の認知度向上を図るとともに、社会に出た学生が SDGs 達成を意識した活動を地域や企業等で取り組むことにつながるよう、学生が主体となって取り組む SDGs の普及促進や達成に向けた事業に要する経費に対し、補助金を交付します。



▲ 滋賀県内大学 SDGs 補助金 受給団体 成果報告会
「xChannel」にて成果報告 (2020.2.27)

学びのコミュニティ 集団形成助成金

立命館大学独自の奨学金であり、課外活動を通じて学生が成長することを期待して設立した制度です。立命館大学内の学生でのグループで高い成果を期待される団体に活動経費を与えるというものです。毎年、春に応募が始まり多くの団体が応募します。正課外の活動にも取り組んでみたいという人には活用して欲しい奨学金です。



▲ 学コミュ オンライン報告会にて成果報告
(2020.3.27)

ふるさと SDGs

ふるさと SDGs は、若者が地域で挑戦できる環境をつくり、機会をシェアすることで SDGs 達成を目指します。

2019 年度は「関係人口」に着目し、甲賀市に多様に関わる人を創出する取り組みを行いました。若者と地域がリアルに繋がり、共に地域の未来について考え、持続可能な地域を実現するためのアイデアを実践していきます。

「甲賀でつながる 30 日」

コンセプト

VISION

若者が挑戦できるまち

MISSION

甲賀市の関係人口を創出

VALUE

若者と地域がリアルにつながり
持続可能な社会を共創する

30日間スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
				1 出発式	2 第3回 インパクトゼミ	3 オープニング イベント
4 やまうち 交流会	5 ふるさと 手裏剣の旅	6 ふるさと バーチャル会議	7 ゲスト宿泊日	8 甲賀の学びば	9 ゲスト宿泊日 ナイトウォーク	10 もちつき体験
11 あきやEXPO	12 ふるさと 手裏剣の旅	13 ふるさと バーチャル会議	14 防災DAY	15 甲賀 のんべえ会	16 出張！ むらのこ学校	17 むらのこ学校
18 あきやEXPO	19 プレ 立命館 DAY	20 ふるさと バーチャル会議	21 あきやEXPO	22 ふるさと食堂	23 こうカップリング 立命館 DAY	24 土山名所ウォーク 農業体験
25 鮎河 フィールドワーク	26 冷蔵庫 ハッカソン	27 ふるさと バーチャル会議	28 あきやEXPO	29 ほしぞら 観賞会	30 成果報告会	

02

企画紹介

甲賀でつながる30日

TaBiwa + R 2019年度活動報告書



▲「甲賀でつながる 30 日」事業紹介



▲ イベント終了後の集合写真

オープニングイベント

@甲賀市 市民活動センター まるーむ

甲賀でつながる 30 日のオープニングイベントは、市役所の担当者をはじめ、この 30 日間で関わっていただく地元の方々を招待して行いました。TaBiwa + R 代表の挨拶から始まり、甲賀市代表として政策推進課の谷口様に甲賀市の現状を説明していただきました。全員で行ったテーマディスカッションでは、私達が 1 ヶ月貸していただく空き家の名前を決めました。地元住民・市

の職員・学生という年齢も立場も異なる参加者が自分の想う甲賀のイメージや、この 30 日間への期待を込めて話し合いました。投票で決められた「ほしぞらはうす」という名前は、山内地域の美しい星空とイメージと、空き家での人と人とのつながりが星座のように広がるように願いを込めてつけられました。



▲ 登壇者・参加者を交えてディスカッション

第3回 インパクトゼミ

@ここ滋賀・東京



▲ イベント終了後の集合写真

第3回インパクトゼミはゲストに内閣府男女共同参画局長 池永肇恵氏をお招きし、「若者と女性が活躍するには」をテーマにご講演いただきました。学生登壇者として芝浦工業大学 SDGs 学生委員会 - 綾いと - の学生、群馬県立館林女子高等学校の生徒に「大学で

の SDGs の取り組み」、「女性学と災害とジェンダー」についてお話しいただきました。ディスカッションでは学校も年齢も異なる様々な参加者が集い、ジェンダー平等について他人事ではないことを共有しました。



▲ 当時使っていた道具についての説明



▲ ふるさと絵屏風を使って昔の暮らしを四季ごとに説明

甲賀の学びば

「ふるさと絵屏風」で伝える地域の原風景

@竜法師公民館

甲賀の学びばでは、甲賀市の歴史や文化についてコアメンバーを中心とした学生が学びました。今回は、竜法師公民館でふるさと絵屏風を作成した地域の皆様にご協力いただきました。ふるさと絵屏風は、甲賀市土山町でふるさとの良さを後世に伝えるために始まった取り組みです。地域活性の取り組みとして、注目されています。

ふるさと絵屏風は、昔（昭和20年代

頃）の四季の風景を、地域の高齢者に当時の記憶を丹念に聞き取って作成します。実際に使用したアンケートには、匂いや触感などの感覚まで丁寧にまとめられていました。また、実際に使っていた道具についても実物を見せていただき、農業に使う道具や着ていた服などから当時の生活をより身近に感じることができました。



▲ 酒蔵見学



▲ 水口地域の皆様との交流・日本酒試飲

甲賀のんべえ会

@美富久酒造

第2回甲賀の学びばは、甲賀市水町にある美富久酒造さんにご協力いただきました。甲賀市の地酒の歴史や作り方、日本酒産業について、酒米農家の方や日本酒のラベルのデザインをした方など、甲賀市の日本酒造りに関わる多様な職人さんからお話を伺いました。実際に酒蔵を見学し、参加者が

甲賀の地酒について詳しくなった後は地域の方々と学生で地酒の飲み比べの試飲会を行いました。これまで甲賀市に来る機会のなかった学生が多く訪れ、地域の方と交流を深めながら地元産業の魅力や将来について考えるきっかけとなりました。



▲ 信楽焼の廃材を利用したフォトフレーム作り体験



▲ 運営メンバー集合写真

出張！むらのこ学校

@土山サービスエリア

出張！むらのこ学校は、新名神高速道路の土山サービスエリアにて訪れた方に信楽焼の廃材を使ったフォトフレーム作り体験を行いました。この企画は、土山ハイウェイサービス株式会社様の協力と、明山陶業株式会社様からの信楽焼を砕いて角を落とした「陶ころ」の提供があり行うことが出来ました。多くの家族連れに体験していた

だき、親子でフォトフレームを製作する姿や兄弟、姉妹で助け合いながら製作する姿が見られ、この企画の目的でもある家族間での交流を生み出すことが出来ました。近畿圏だけではなく、関東から訪れた人も参加していただき、より広く甲賀市の魅力や信楽焼の良さを発信することが出来たと感じています。



▲ もちつき体験



▲ イベント終了後の集合写真

むらのこ学校

@旧山内小学校

甲賀市の山内地域にある廃校に、他市から小学生親子を招き、甲賀市の魅力をぎゅっと詰め込んだ一日限定の特別授業を行いました。午前中は甲賀の木を使った丸太切り、忍者の保存食である兵糧丸作り、山内の特産品アロニアを使ったジャム作りの中から、好きなものを選んで体験しました。お昼には、餅つきを行い、運営メンバーも一緒に全員で美味しくいただきました。お腹

を満たした後は、バランスボール体験をしたり、忍者の所作を教わるなど、体を動かして楽しみました。最後に甲賀のお茶を使ったお茶バター作りを体験しました。結果的に参加者と運営メンバーを合わせて50名近くの方に参加していました。あらゆる世代に甲賀に興味をもってもらうきっかけになる企画になったと感じています。

11/23



▲ 陶芸体験（手びねり）



▲ お茶室で作法レクチャー

こうカップリング

@宗陶苑

甲賀市の特産物である信楽焼体験を行いながら新たな出会いを作り、甲賀市の魅力を知ってもらう企画を行いました。「手びねり」という手法で、ろくろを使い信楽焼体験を行いました。できあがった作品は、参加者それぞれ大きさや形が違い、作る人の個性があふれる作品となりました。窯元の見学も行い信楽焼がどのようにできているの

か知ることができました。

信楽焼体験の後には茶道体験を行いました。紅葉を見ながら参加者の方々とお話ししお茶の作法を学び、静かで落ち着いたひとときを過ごすことができました。参加者の中には「次は忍者に会いたい！」という方もいて、再び甲賀に訪れたいと思うきっかけとなりました。

11/23



▲ 馬場さんより乾杯の挨拶



▲ 立命館関係者・学生・地域の方々が交流

立命館 DAY

@ほしぞらはうす

立命館 DAY は、事業に関わって下さった立命館大学関係者を中心に、地域の方も一同に集まり、親睦を深めました。甲賀市の食材を使った料理や地酒を楽しみながら、様々な立場の人が、地域や大学の協働についてなど意見交換をする場となりました。普段、お話する機会がなかった方とお話することができ、今まで知らなかった一面を見ることができました。

学生・若者のみならず、社会で活躍されている方が甲賀市に実際に訪れ、魅力に触れることができたことは、大学と地域が持続的に協働できるきっかけとなったのではないかと思います。このような場を設けたことで、できたつなかりを大事にして、持続可能な地域を実現を目指す事業に今後も挑戦していきたいです。



▲ 大根・里芋の収穫体験



▲ 地域の農家さんにお話を伺う様子

農業体験

@甲賀市 土山町黒川

ほしぞらはうすがある土山町黒川で農家をされている馬場治夫さんの畑で、大根や里芋などの収穫体験や交流を深める座談会を行いました。馬場さんは、化学的に合成された肥料及び農薬の使用と遺伝子組み換え技術を利用しない「有機農業」という栽培方法で米や野菜を育てられています。農業体験で「どのように野菜が育っているのか」を実

際に見て、座談会では「健康・食と農業の重要な関係」など、学生の目線も交えて意見交換を行いました。参加した学生からは、「自分で収穫した体験があるだけで食べ物のありがたみを感じた」などの声がありました。今後は農業がある暮らしをより多くの方が体験できる企画を行っていきたいです。



▲ 土山宿本陣を見学



▲ 名所ウォーク参加者で集合写真

山内名所ウォーク

@甲賀市 土山町 山内地域

土山名所ウォークは、甲賀市に住んでいる方が参加しており、土山の名所をめぐりました。この土山名所ウォークでは地域方と交流が出来き、自分達の知らない甲賀市や土山の魅力を見たり、聞いたりすることが出来ました。また歩きながら、地域の方が地域の課題に対して抱えている想い、この地で活動したいという私たちの想いをお互いに共有することができました。歩いている途中で、ゴルフ場のそばを通っ

た時に「外部から企業が地域にビジネスで参入すること」が話題になりました。ビジネスによって地域が金銭的に潤うようなイメージを持っていましたが、実際は森が切り開かれて災害の危険性が高まったり、その時被害を受けるのは地域の人たちであるということを知り、自分達が思っていること、現実とは違うことに気づかされ、直接声を聞く重要性を感じました。

11/25



▲ 鮎河千本桜（うぐい川）の紹介と課題を知る



▲ 青土ダム施設見学と仕事紹介

鮎河フィールドワーク

@甲賀市 土山町 鮎河

鮎河地域市民センター 地域マネージャーの中村真さんに、半日かけて鮎河地域周辺を案内していただきました。桜や蛍、紅葉の名所に足を運び、また四季折々の魅力を感じに來たいと感じました。鮎河菜（あいがな）をはじめとする伝統野菜を育成されている農家さんのお話を伺い、ロシア料理ボルシチで有名な、栄養豊富な野菜「ビーツ」などの収穫を体験させていただきました。地域の魅力に触れることができた一方で、獣害の影響もあって増えているという耕作放棄地、放置されたまま年を経て朽ち崩れた空き家など、地域が直面している課題を実際に目で見たことが深く印象に残っています。

11/29



▲ ほしぞら하우스前で星を観察



▲ 天文サークルOBの方による解説

ほしぞら観賞会

@ほしぞら하우스

「ほしぞら하우스」の名前の由来にもなった、綺麗な星空。大学の天文サークルOBの方に協力していただき、ほしぞら하우스の前で天体観測を行いました。新月期で天体望遠鏡による月の観測ができず、望遠鏡の有効活用が難しかったですが、生の星を見ながら天体や星座の解説をしたことで参加者に

星の魅力を存分に伝えることができませんでした。参加者のなかにはカメラを持参する学生も多くおり、地域の魅力を発見するまたとない機会となりました。多くの学生がほしぞら하우스に集い、30日企画最終日を前にして一段と交流も深まりました。



▲ 他地域の方も含めた交流



▲ 川西区の皆様との交流

交流会

@ほしぞらはうす

複数回にわたって行われた交流会では、「ほしぞらはうす」の近所の皆様や甲賀でつながる30日の企画に関わってくださった方や、甲賀市役所や立命館の方を「ほしぞらはうす」に招待し、学生達が食事を振る舞いました。この会では、普段接することが少ない、あるいは全くないような大人の方々と数時間にわたり会話をし交流を深めました。

た。4日のやまうち交流会は、ほしぞらはうすがある川西区の皆様をお招きしました。地域の文化や、課題に感じていることなどを聞くことができました。22日のふるさと食堂では、ほしぞらはうす大家の馬場さんが他の地域の方も招待され、これまで甲賀市・地域を支えてきた方から様々なお話を聞くことができました。

11/11.18.21.28



▲ Momitter(もみったー)



▲ ほしぞらはうすの看板が完成

あきや EXPO

@ほしぞらはうす

あきや EXPO では、30 日間私たちが甲賀市で過ごした成果を目に見える「カタチ」にしました。甲賀をもみじの木に、参加者の方々とそこに立ち寄った小鳥に見立てた「Momitter(もみったー)」を作成しました。イベントに参加していただいた方や地域の方の声・応援メッセージを「さえずり=Tweet」として「もみじの葉」に書いていただき、甲賀でつながった証と

して様々な場所で展示しました。また、30 日間毎日実施したさまざまな企画を手書きカレンダーにまとめたり、1 ヶ月間お借りして過ごした「ほしぞらはうす」の名前の由来や込めた想いをポスターで表現したりしました。1 ヶ月間を振り返るなかで、たくさんの思い出とともに反省点も見えてきました。今後活動を継続していかなかで取り組んでいきたいと思っています。

毎週火曜・水曜



▲ 第1回で訪れた水口城南駅

ふるさと手裏剣の旅

@甲賀市内・zoom



▲ 甲賀市国際交流協会にてインタビュー

甲賀市の地図に向かって、手裏剣を投げて刺さったところに行く「ふるさと手裏剣の旅」。調べても出てこない、予定していた企画だけでは絶対に関わることがない地域を知り発信するために週1回行いました。水口城南、土山IC付近などにあたり、周辺の住民の方にインタビューや人気の飲食店に行きました。この旅の様子は、「ふるさとパトロール会議」として、4回にわたりオ

ンラインで発信し、甲賀市に訪れることが難しい方に向けても、発見した魅力や課題について一緒に考える機会となりました。4回目には芝浦工業大学のSDGs実行委員会 - 綾いと - の皆様と、地域をフィールドにしたマイプロジェクトの発表とそのフィードバックを行いました。「大学生・若者の強みを活かして、全国に向けてネットワークを広げていくきっかけとなりました。

03

総評

甲賀でつながる30日

TaBiwa + R 2019年度活動報告書

メンバーの声

TaBiwa + Rのメンバーが

30日間の活動を通じて、

感じたことや学んだことを

まとめています。

中西 優奈（生命科学部3回生）



学生・若者が挑戦できる環境に感謝

甲賀で生活して感じたことは、学生・若者が挑戦できる環境があることです。地域で活動していくための環境づくりに何年かかると言われているのにも関わらず、活動を始めてから1年間でこのような企画ができたのは甲賀市だからこそです。30日企画では毎日企画に追われているように感じ、辛く感じることもありましたが、自分たちのやりたいことにたくさんの方のご協力があることを生活しながら感じていたので、1か月間やりきる事ができたと思います。

西野 日菜（理工学部3回生）



若者が地域活動に関わるきっかけを

「甲賀でつながる30日」は、ガバメントクラウドファンディングや空き家での住み込み、毎日企画という数々の挑戦で実現することができました。この企画を実施するにあたって何度も甲賀市に通い、多くの人と触れ合いました。この1年間で甲賀市が自分のふるさとのように思えるようになりました。2019年11月の1か月間は、企画参加者にとって「はじめて甲賀市を訪れた月」になったケースが多いのではないのでしょうか。今回のプロジェクトが、少しでも多くの若者の地域への興味関心、地域での活動に繋がれば嬉しく思います。

荒木 真凜（食マネジメント学部 1 回生）



もっと地域の役に立ちたい

1 ヶ月間も自分の地元ではない地域のことを考えて過ごしたのは初めてだったので、新鮮で学ぶことが多くありました。さまざまな企画に関わる中で、地域の方の優しさが本当に伝わって自分ももっと甲賀市の役に立ちたいと思うようになりました。甲賀に住んでいる方が、「住んでいてよかった！」と思えるような、また私達の企画に参加してくれた方が「甲賀でこんなに楽しい思い出ができた！」と周りの人に自慢できるような活動をしていきたいです。

中西 愛裕美（食マネジメント学部 1 回生）



生活したからこそ感じた地域の温かさ

甲賀市で1 ヶ月間生活して一番感じたことは周りの人の大切さです。企画の面では自分1人では出来ないことがたくさんあり、日々の生活の面では地域の方々の助けがないと分からないことがたくさんありました。そんな中、地域の方々など周りの方々が優しく私たちに教えていただけたからこそ1 ヶ月間を終えることが出来たと思います。これからは、この1 ヶ月間、生活してわかったことや地域の方々の温かさをもっと多くの人に知ってもらえるような活動をしていきたいと思いました。

野山 美鈴（N 高等学校 2 年生）



「田舎」の新たな可能性を感じた

甲賀市に初めて足を踏み入れた日から1 ヶ月間。甲賀のひとの温かさに触れ、豊かな自然を味わう、本当に学びの多い時間でした。地域の方とお話するなかで実際に接している課題は一筋縄ではいかないことを感じ、自分に何ができるのか、解決のきっかけになるような提案を自分が生み出すことができていたのかと考えることも多くありました。この1 ヶ月間で「つながる」ことができた、このことをきっかけとして、今後も関係人口の一人として地域の魅力を甲賀市内外の方と共有していきたいです。私自身オンラインで学校に通う身ですが、ライフスタイルが多様化するなかで「田舎」であるからこそその価値が再認識され始めていることを感じ、新たな可能性が見えたように思いました。最後に、お世話になったすべての方々に感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。良ければ、私にとって大切な場所の一つとなった甲賀市を、心のふるさとと呼ばせてください。

田中 直人（理工学部 2 回生）



自分にできることから地域に還元を

甲賀市で企画を行う中で、甲賀市には心の広い人や心に余裕がある人が多く、そのような方々のおかげで1か月間の生活や多様な企画を行うことができたと感じました。朝晩の冷え込みや、都会では見ることのできない綺麗な星空、澄んだ空気を存分に満喫した1か月間で、生活するからこそ分かる甲賀の魅力を知ることが出来ました。この企画を実施するにあたって協力していただいた方々には非常に感謝しており、なにか別の形で還元していきたいと考えています。

野口 博文（情報理工学部 2 回生）



人との関わりから学びがあった

私は、この企画に関わるまで甲賀市に行ったことはなかったのですが、この企画の準備や下見、1ヶ月の間甲賀に住むなど様々な形で関わり学ぶことができました。市役所の皆さんや土山の人たちと話し合い、大人の人達の意見を聞いたことはよい経験になったと思います。今回のことで学んだことやその後に知ったこと等をふまえ、私はまた甲賀市を訪れようと思いました。

松村 有真（理工学部 4 回生）



これからも甲賀の魅力を探しに

私が甲賀市のことを知ったのは、ほんの2年前のことで、今まで通り過ぎていた場所に新たな関係ができました。甲賀市には私の町にはない人情があり、常に助けられ、甲賀市に住んでいる方と関わって嫌な思いをしたことがありませんでした。そんな甲賀市の魅力を日本中に広めたい、知ってほしいと思い、2年前から活動を重ね、1つの大きなイベントを行うことができました。しかし、現状は変わらず、認知度拡大にまだ遠く、また、私にも発見できていない魅力が隠されていると思います。これからもその魅力を探しに、ふらっと訪れたいです。

講評

本事業に賛同して頂き学生の活動
にご協力いただいた、地域・行政・
大学の各方面の関係者を代表して
4名の方からのコメントです。



谷口 理恵（甲賀市政策推進課）

経験を活かして甲賀へ前に送り出す

物言わぬ空き家だったこの家が「ほしぞらはうす」という名前をもらって1か月、物語の主人公のような脚光を浴びました。空き家に若者の賑わう声。そして多くの初心者マークの車。また学生の皆さんとの地域交流会。私たちの山内地域からの通学などそれは今までになかった光景を生み出しました。家主であった私もホームステイを受け入れるホストファミリーへと自然になっていった1か月でもありました。これから先、皆さんがフィールドスタディで培った強みや弱み、課題、私たちが気付いていなかった甲賀、私たちの視線の奥にあった甲賀を思い切り前へ送り出してもらいたいと思います。それが私たちの応援のシュプレヒコールです。

行政・地域・大学生が共に走りきった1年間

事業に参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。市としても大きなチャレンジで不安もありましたが、皆さんの熱意と、暖かく迎えてくださった地域の方々のおかげで何とかここまで走りきることができました。皆さんが実際に生活する中で気づいた地域の魅力を、様々な方法で発信していただいたことで、多くの方がこの街に関わるきっかけが生まれ、関係人口の創出につながったのではないのでしょうか。一方、学生の皆さんのやりたいことと地域のニーズのすり合わせが必要なことや、毎日のイベントと学業の両立が予想以上に難しいことなど、課題も見えてきたと思います。次年度以降の活動にこの経験を生かしていただければ幸いですし、市としても引き続き皆さんの活動を応援させていただきます。



馬場 康次（ほしぞらはうす 大家）



大藪 康成 (BKC 地域連携課 課長補佐)

できることから一歩ずつ前へ

30 日間の甲賀での生活を通じて、関係したメンバーの一人一人が成長をしていったかと思っています。2019 年 2 月の「むらのこ」から活動を見てきましたが、自分たちの想いと地域の現実との差をどう埋めるのか、という事が大きな課題だったかと思っています。その差を埋めるために、地域で生活をしたのですが、地域での最終日のプレゼンテーションで、まだ埋め切れずにいました。今回実行して見えた課題は、先を見通したタイムマネジメントと、自分たちのやっている事の情報発信に尽きるかと思っています。その上で地域とより密接に関係し、大きなビジョンを持ちながら、出来る事から一歩ずつ前に進めていく、そんな活動になっていく事を期待しています。

得られた成果を次の世代へつなげていく

まずは 30 日間お疲れ様でした。計画力、実行力、やる力には感心するばかりです。本業である学修や研究が疎かになってしまうのではないかと危惧するほど熱心に取り組む姿はとても輝いて見えました。むしろ本業にも良い影響を与えるのだと自信を持って答える様子をみて、今回の 30 日間がきっと地域の方々にも良い影響を及ぼしてくれることになるだろうと実感することができました。資金調達策としてガバメントクラウドファンディングという新たな取り組みにも挑戦しています。30 日間、無事、やりたいことに挑戦できたことは、多くの方々のご支援ご協力があったとのこと、この成果を次の世代へも確実に繋いでいってほしいと思います。



小沢 道紀 (食マネジメント学部 准教授 / TaBiwa + R 顧問)



アンケート結果

甲賀でつながる 30 日の 1 ヶ月で関わっていただいた皆様（企画への協力・参加など）の、意識の変化を調査することを目的に、アンケートやインタビューを行いました。来年度のプロジェクトをより良いものにするため、参加者や地域の方の声からニーズを探りました。

地域の方の声

新しい感性を甲賀市に入りたい

甲賀市在住・訪問したことがある人を対象に、企画終了後にインタビューを行いました。イベントを通じて、「若い人と交流ができ発想に触れられる機会をこれからも作っていった欲しい」という意見がありました。体験型イベントに協力してくださった方からは、「もう少し体験する時間があればよかった」という意見も多くあり、企画に参加し甲賀市の魅力を知ってくれた方が次に訪れたときに、甲賀市の魅力を十分に伝えられるような工夫が必要であることが分かりました。また、企業の方からは「ビジネスに生かしたい」という声もあり、経済の流れも生み出すことができれば、より活動が持続可能になるという可能性も感じました。甲賀市の豊かな自然や、人の温かさを生かしたプロジェクトを今後は提案していきたいです。

参加者の声

交流する環境が欲しい

甲賀市外から企画に参加していただいた方を対象にしたアンケートを行いました。アンケートでは、「甲賀市にまた訪れたいか？」という質問に対して、全ての人が「はい」と回答いただき、甲賀市の自然や人の温かさに魅力を感じて人が多かったです。今回の企画では、地域住民の方と地域外の学生が交流する機会は多くありましたが、甲賀市在住の若者や、若い社会人の方と交流する機会がありませんでした。甲賀市・地域の未来を考え、実践していく上で、上記のような年代層の方の意見を聞いて協働していく必要があります。交通の便が悪いという意見があり、甲賀市まで楽しみながら到着できる工夫をするなど、甲賀市に行きやすい「きっかけ」を作っていきたいです。

社会への発信

立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて12月14日-20日にかけて開催された「Sustainable Week 2019」にて甲賀市物産ブース「こうかふえ」の出展、社会システム研究所プロジェクト「地域の自律の意味を考える」シンポジウムにて活動報告を行いました。

こうかふえ

14-15日に甲賀市の特産品を使った販売ブースを設けました。1日目は山田牧場さんの1ロパイとミニバウムクーヘン、JA こうかさんのお茶ジャムを販売しました。「おいしそう」「どんな商品なの」と興味を示してもらう方など様々な方に甲賀市の特産品を手にとってもらうことの出来る良い機会となりました。2日目には、「こうかふえ」で甲賀もち工房さんのお餅を使ってぜんざいを提供しました。寒い中での温かいぜんざいはとても好評でした。展示を見に来てくださった方や、他の企画に関わっていた方、通りすがりの方など、さまざまな方に甲賀のお餅を味わっていただくことができました。1日目に引き続き、特産品の方も手に取っていただけて、甲賀に全く関わりがなかった人にも「甲賀」の名前を知っていただく機会となりました。



▲ ぜんざい販売



▲ 特産品の販売

地域の自律の意味を考える

17日には、社会システム研究所プロジェクト「地域の自律の意味を考える」シンポジウムにて、代表の中西が活動報告を行い、パネルディスカッションにパネラーとして登壇しました。パネルディスカッションでは、「甲賀でつながる30日」を題材に、大学教職員、甲賀市職員、大学生、それぞれの立場から、地域が自律する上での学生の役割や、大学と地域がSDGsを同一指標として社会実装につながるのか、といった内容について論じ合いました。



▲ パネルディスカッション

04

展望・付録

甲賀でつながる30日

TaBiwa + R 2019年度活動報告書

今後の展望



今回は「甲賀でつながる 30 日」と題し、1 ヶ月間ずっと甲賀市とつながりをもつということを中心に活動してきました。その経験と反省を活かし、今後は3つの軸を中心に活動していきたいと考えています。まず1つ目は、1年を通して甲賀市とつながることです。この活動を通して、地域創生を進めるには持続的な関わりを持つことが重要だと感じました。また、地域の方と関わる中で、四季折々の甲賀の魅力を教えていただき、1ヶ月では物足りないと感じたことも理由の1つです。2020年度は、より広くつながりをもちたいと考えています。2つ目は、活動の発信を強化することです。今回の反省点として、事前の広報や活動報告が周りの人に十分に届けられていなかった点があります。さまざまな SNS や、地域に向けての紙媒体、大学生ならではのつながりを活用して、甲賀市内外問わず、多くの方に甲賀をより魅力的に伝えていきたいです。3つ目は地域との交流を継続することです。発信するだけにとどまらず、地域の方と定期的に意見交換の場をつくるなど、顔を合わせての交流も行っていきたいと考えています。



Photo Gallery

メディア掲載

2019.08.19 KBS 京都ラジオ「さらピン！」に出演

2019.10.01 「広報こうか」にて掲載

2019.10.17 「産経 WEST」にて掲載

2019.11.01 「甲賀フリモ」にて掲載

2019.11.26 「京都新聞」滋賀版朝刊 にて掲載

2019.12.03 読売テレビ「関西情報ネット ten!」にて放映

2020.03.09 2019 年度 立命館大学 学生部長表彰 受賞

2020.03.24 「キラリと輝く学生 +Rな人」にて掲載

特設サイト▶

URL:<https://sustainableweek.org/furusato>



報告動画▶

URL:<https://youtu.be/7C6mFsE1ddA>



活動の様子(note)▶

URL:<https://note.com/sustainableweek/m/m10442f2a3419>





きっかけは「ふるさと」から

発行：TaBiwa + R

編者：中西 愛裕美、中西 優奈、西野 日菜

E-mail：sustainableweek@gmail.com

※本報告書に記載している所属は 2020 年 3 月現在のものです。

※甲賀市市民協働応援補助金にて製作

2020 年 3 月 10 日 初版発行